

<まとめ>

食物連鎖を示す生態系ピラミッドの図を見たことがありますか？見れば、知識としては理解できます。しかし、実際に川に入って、魚や水生生物を捕まえ、いろいろな種がいることを体験すると、この生態系ピラミッドをイメージとして実感することができます。いろいろな種がいて、それらが構成する生態系ピラミッドがバランスよく保たれている状態が「生物多様性が守られている」状態です。

今回、生き物調査を実施して、宝満川は生物多様性が守られた川であることを参加者全員が実感したと思います。

そして、生物多様性は宝満川にだけ特別に存在しているのではなく、私たちが暮らしている環境の中にもあります。

食物連鎖を示す生態系ピラミッドの中に、人間は「食べたり・食べられたり」の関係として組み込まれているわけではありません。しかし、この生態系ピラミッドを構成する様々な生き物からいろいろな物を得て生きています。

植物が光合成で出す酸素を吸い、人間が吐き出した二酸化炭素は植物が吸収しています。

川からはきれいな水を取って利用し、使い終わった水を川に排出しています。

いろいろな生き物を食料として、原材料として利用しています。

私たちの暮らしは、生き物からのめぐみに支えられています。言い換えると、「私たちは、生物多様性の中で生かされている」と言えます。

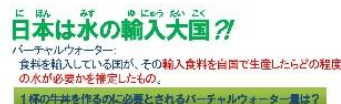
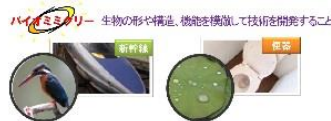
一方で、「生かされている」から「守らなければならない」というだけでなく、生物多様性には未来の可能性があり、積極的に守るべき価値があります。

薬の40%は生き物を作る成分から開発されたと言われていています。現在、2人に1人がガンに罹り、3人に1人がガンで死亡すると言われてっていますが、まだ知られていない多くの生き物からガンの特効薬が見つかるかもしれません。

また、生き物の形や構造、機能を模倣して技術を開発することを「バイオミクリー」といいます。これも既にいくつか実用化していて、500系新幹線の先端の形は空気抵抗を減らすためにカワセミの頭部の形を真似て作られました。また、蚊に刺されても痛みを感じないことから、蚊の針を真似て、極細でギザギザのついた痛くない注射針が開発されています。

日本は食料の多くを輸入に頼っています。つまり、国外の生き物のめぐみを受けているということになります。このことについて、水を指標にして考えたのがバーチャルウォーター（仮想水）です。

穀物を生産するには大量の水が必要です。例えば、1kg のとうもろこしを生産するには1,800リットルの水が必要です。牛は穀物を大量に消費しながら育つため、牛肉1kg を生産するには20,000リットル以



上の水が必要であるといわれています。身近な例として、牛丼1杯を作るのに必要とされるバーチャルウォーターは1,889リットルと計算されます。

この話の問題点は、国外では水不足や水質汚染が深刻化している国や地域が多くあり、果たして日本に住む人々がいつまでも今のままの食事ができるとは限らないということです。

そこで、食料を外国に頼らない食生活のあり方として、「地産地消」が挙げられます。地域の産物を旬の季節に味わうことで自然のめぐみの大切さを感じられるだけでなく、国外からの輸入に比べて圧倒的に流通エネルギーを削減できること等のメリットがあります。

このように、私たちの暮らしは、生き物のめぐみに支えられていますが、その基礎となっている生物多様性に危機が迫っています。

その1つが「外来種による危機」です。

外来種は、人間がペットや食料等として国外から持ち込んだ生き物が自然の中に捨てられるなどして野生化したものをいいます。外来種は、もともとそこにいた生き物を食べるなどして生物多様性に悪影響を及ぼします。ペットで飼育する場合は最後までかわいがって飼ってほしいものです。

もう1つが「地球温暖化の進行」です。

1℃高くなると、異常気象による危険性が高まると言われています。既に0.7℃から1℃上昇していると言われているので、猛暑・豪雨等、異常気象については実感があると思います。

2℃高くなると、環境の変化についていけない生き物が絶滅する危険性が高まります。生物多様性に大きな影響が考えられます。

3℃以上高くなると、地上にある氷が溶けて海水面が上昇し、水没する場所がでてくると言われています。

そこで、2015年に締結されたパリ協定で気温上昇を2℃未満にすることが国際的に合意されました。地球温暖化の原因物質である二酸化炭素の発生量を減らしていかなければ、地球温暖化にブレーキがかかりません。

国民全体で省エネ・節電に取り組むため、国は COOL CHOICE を推進しています。省エネ・節電に積極的に取り組むこと。環境に優しい商品を選ぶこと。このようにライフスタイルを賢く選択することが、COOL CHOICE です。一人ひとりにできることがきっとあります。

世界では、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた動きが始まっています。SDGs は、2030年に地球上の誰一人として取り残さないことを誓い、世界中で取り組んでいく目標として設定されたものです。

家庭でできる省エネ・節電の取組みも「Goal13 気候変動に具体的な対策を」のゴールに向かうための一歩です。それは、「Goal14 海の豊かさを守ろう」「Goal15 陸の豊かさを守ろう」に含まれる生物多様性の保全につながります。そして、「Goal17 パートナリーシップで目標を達成しよう」のとおり、一人ひとりの力が束になって、ゴールへと進んでいくのです。

気温上昇を2℃未満に！

COOL CHOICE

- 消灯、適切な温度設定、節水を心がけよう！
- エコ家電、環境に優しい商品を選ぼう！

本来のため、心を配ろう。

ライフスタイルを賢く選択

エス・ディー・ジーズ
SDGs
持続可能な開発目標



国の取組み、世界の動きというように大きな話をすると「自分には無関係だ」と思ってしまうかもしれませんが、皆さん一人ひとりにできることがあります。

「エコチェックシート」は、1日5項目の省エネ・節電の取組みを1週間続けてみようという内容です。ここに書かれている5項目の取組みはどれも難しくはない。できた項目にシールを貼って、1日5点、7日間で35点満点となります。こういった一人ひとりの省エネ・節電の取組みが地球温暖化にブレーキをかけることとなります。

さらに、家庭みんなで省エネ・節電を取り組む際には、「福岡県環境家計簿」を活用していただきたい。環境家計簿は、日頃の生活で使用している電気・ガス・水道などの使用量を書き留めることで、省エネ・節電の頑張りが目に見えます。

環境家計簿を使って省エネ・節電に取り組むのであれば、エコファミリーに登録しない手はありません。エコファミリー登録制度には、省エネ・節電に取り組む家庭を応援する特典が満載です。

